



暮らしに寄り添う 器づくり

眞崎善太さん(63) 諫早教会

四百年以上の歴史をもち、いま人気を集める波佐見焼。その産地、長崎県東彼杵郡波佐見町で「一真窯」を営む眞崎さんは、波佐見焼の特徴を「時代とともに進化する日用食器」と語る。

「ここでは江戸時代から大量生産を行ない、その後、型屋、生地屋、絵付けなど町ぐるみの分業体制を確立して、丈夫で安い庶民のための食器を作り続けてきました」

実家は、父親の代で窯の火を落とした。借金を返済し、家計を支えるため、高校卒業後に職人の道に進む。立正佼成会諫早教会の栗山和己(かずみ)教会長(当時)から「町に残りなさい。君ならがんばれる」と励まされたからだ。それでも仕事を辞めて町を出たいと思ったことがあるが、あるときから「どうせやるなら、楽しんでとりくもう」と思い直し、ひたむきに仕事

に打ちこんだ。その姿が出資者の目にとまり、平成元年、一真窯が誕生した。

波佐見焼は、窯元それぞれの個性が目立ち、独自の工夫が光る。一真窯の代表的なデザインは、白磁に彫り文様が刻まれた「一真窯手彫り」だ。

彫りの美しい文様は、成型・乾燥後の生地を眞崎さんがカンナで削って施す。加減を誤れば簡単に碎けるもろい生地を、光が透けるわずか一・八ミリの薄さに削る。

「うちで作る器の完成度は六十五パーセント。お客さまが料理を盛りつけて百パーセントになる」と、常に使う人に寄り添う眞崎さん。いまはテーブルセット、ティンダ全体を提案できる食器シリーズの充実に力を注いでいる。



有限会社一真陶苑
〒859-3712
長崎県東彼杵郡波佐見町
中尾郷 670
電話 0956-85-5305



* 立正佼成会経営者サンガネットワーク「六花の会」
<https://rikkanokai.jp/community/>
8月1日から上記 HP でもこの記事がご覧になれます。